

バス業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	2	20 ～ 21	会社の慰安旅行中、自動車道で大型観光バスが雪約5センチでスリップしてハンドルを取られたまま走行し、陸橋の橋台に激突し、運転手が肺損傷で死亡し、交代の運転手も両脚部を骨折するなど重傷を負った。（乗客2人が左足を骨折して重傷、9人が軽傷）	231	17	30 ～ 49
1999	9	21 ～ 22	路線バスで国道を運行中、故障したため、乗客を救援バスで送ったのち、応援の運転手2名とともに故障したバスの後部で修理作業を行っていたところ、飲酒運転の普通トラックに衝突された。	221	17	100 ～ 299
1999	12	18 ～ 19	車庫において29人乗り中型バスの前部に格納されたスペアタイヤの空気圧調整作業をするときに、サイドブレーキを引いてなかったバスが動き出し、手で押さえようとしたが、押さえ切れずにバスと電信柱との間に挟まれた。	231	7	1～ 9
2000	2	8 ～ 9	観光バス(乗客31名)が、前方を除雪作業中の除雪車に追突した。	231	17	10 ～ 29
2000	3	2 ～ 3	スキー客を乗せた大型観光で国道を走行中、対向の大型トラックがセンターラインをオーバーしてきたために正面衝突し、バス運転者が死亡、また、バスの代替運転者も重傷を負い、対向の大型トラックの運転者も死亡しさらに、乗客19名が負傷した。	221	17	50 ～ 99
		13	バスガイドが駐車場内において観光バスの誘導をするため、乗務するバス			50

2000	1	～	を降りてバスの左側面を歩いていたところ、バスが急に前進して左後輪に	231	17	～
		14	巻込まれた。			99
2000	6	～	工事現場に向ってワゴン車で国道を走行中、信号待ちで停車していたとき	231	17	100
		10	に、後方から走行してきた4tトラックに追突され、前方に停車していた10t			～
			トラックとの間に挟まれた。(同乗の2名も死亡)			299
2001	4	～	車庫前においてアルミ製の折りたたみ式作業台(高さ1.7m)に載りバス車体	371	1	100
		8	の汚れを落しているときに作業台から墜落した。			～
						299
2001	5	～	本社の会議に出席するため営業車で国道を走行中、対向の2tトラックがセ	231	17	1～
		11	ンターラインをオーバーし正面衝突した。			9
2001	3	～	マイクロバスのチェーンを装着作業中に、対向車線の大型トラックがス	221	17	10
		21	リップしてバスに接触したので道路反対側のバス停留所に逃げたが、この			～
		22	大型トラックの後から別の大型トラックが追突してバス停留所に突っ込ん			29
			でひかれた。			
2001	10	～	停車している大型バスの室内清掃作業を行なうため構内を歩行中、切り返	231	7	30
		19	しを行ってバックしてきた自動洗車機内の大型バスの右後輪に胸部をひか			～
			れた。			49
2002	11	～	大学の観光旅行のためバスを運転して走行中、対向の乗用車がガードレー	231	17	10
		20	ルにぶつかった反動で中央線をはみ出してきてバスと衝突し、バスは弾み			～
			で跨線橋のガードレールを突き破り約10m下の線路上に転落した。			29
2002	12	～	市営バスで走行中、ランプ出口の手前で前方を走る大型トレーラーが道路	231	17	100
		19	壁に接触して道路を塞ぐ形で停車したので、バスを急停車して後続車輛に			～
		20	事故を知らせるため車外に出て合図を送ろうとしたとき、後続のトレー			299
			ラーと道路壁との間に挟まれた。			
2002	12	～	路線バスで圧雪状態の自動車道を走行中、前車のトラックがスリップして	221	17	100
			横転したのでそれを避けようとしたが避けきれず、横転したトラックに衝			～

		4	突した。			299
2003	2	14 ～ 15	スキー場のセンターハウス前の緩い上り坂で、客待ちをしていた大型貸切バスに客が乗り込み始めたところ、バスが後退し始めたので、車外で後続車の運転手と打合せ中のバスの運転手があわてて自力でバスを止めようとしたが支えきれず、後続のバスとの間にはさまれた。	231	17	50 ～ 99
2003	5	16 ～ 17	バスを運転して操車所まで行き、誘導員の指示に従い所定位置に停車させて事務所で食事をとっていたところ、誘導員がバスが動いていることに気づき、続いて運転手も気づいてバス前面に回り込んで止めようと試みたがバスは止まらず、道路反対側の川の堤防まで進んでバスの前面ではさまれた。	231	7	50 ～ 99
2003	8	21 ～ 22	高速バスを連ねて走行中、前走の1号車が急制動したので避けようとして右追越車線へ車線変更したところ、その前方で多重追突事故が発生していて、これを避けきれず前方の事故車両に激突し、運転士と交代運転士が全身打撲で死亡した。	231	17	50 ～ 99
2003	8	21 ～ 22	高速バスを連ねて走行中、前走の1号車が急制動したので避けようとして右追越車線へ車線変更したところ、その前方で多重追突事故が発生していて、これを避けきれず前方の事故車両に激突し、運転士と交代運転士が全身打撲で死亡した。	231	17	50 ～ 99
2004	5	9 ～ 10	観光バスを運転して高速道を走行中、徐々に中央分離帯の盛り土に乗り上げ、運転席側が下になり横転した。	231	17	10 ～ 29
2004	12	10 ～ 11	バスの運転業務中、前方を走るトラックが左折するため減速したところに後方から追突した。	231	17	100 ～ 299
2004	2	6 ～ 7	事業場敷地内の門扉前地面上において被災者が仰向けに倒れていた。	419	2	10 ～ 29

2005	10	12 ～ 13	観光バスを回送運転中、コンビニエンスストアの前に駐車していたトレーラートラックに追突した。	231	17	300 ～ 499
2005	3	9 ～ 10	運転業務終了後に事業場で洗車を終え、事業場近傍の飲食店で食事後、体調不良を訴え事業場に戻った後、倒れた。	921	90	30 ～ 49
2005	7	15 ～ 16	国道を走行中に対向車線にはみ出し、さらに10m下の川に転落した。	231	17	30 ～ 49
2005	3	13 ～ 14	送迎用マイクロバスを路上に駐車したところ、マイクロバスが無人で動き出してたため、マイクロバスに乗り込もうとしたが、開けた運転席側扉が住宅の門柱に衝突したはずみで閉まり、被災者が車体と閉まった扉との間に挟まれた。	231	7	300 ～ 499
2006	3	19 ～ 20	ツアーの、観光バスの運転業務を行っていた被災者が、駐車場で乗客を降ろした後に、気分が悪くなり、事業場に電話で連絡した後に意識を失い、病院に搬入されたが、同日死亡した。	921	90	30 ～ 49
2007	2	16 ～ 17	本社敷地内の塗装工場において、大型バス（長さ約12m、高さ約3.4m、幅約2.4m）に長さ約4mのアルミ製移動はしごをたてかけ、バス上部の車幅灯の点検のためはしごを昇降していたところ、コンクリート製の工場の床に墜落した。被災時は意識不明だったが、その後、死亡した。	371	1	10 ～ 29
2008	1	6 ～ 7	出勤のため、事業場敷地内の駐車場から、社屋に向け歩いていたところ、雪で足を滑らせ転倒した。	719	2	100 ～ 299
2008	3	18 ～ 19	被災者はツアー客のガイドを終え、バス車内清掃後にコンビニエンスストアへ買い物に行き、宿泊所に戻るため国道の交差点（信号機や横断歩道なし）を横断していたところ乗用車にひかれた。	231	17	100 ～ 299
		9	交差点を進行中の路線バスに、左からきた大型トレーラが衝突し、その衝			50

2008	2	～	撃でバスの運転者は車外に投げ出されて死亡した。バスは、運転者不在のまま約50m走行し、路肩に衝突して乗客13名が負傷した。	221	17	～	99
2008	4	11 ～ 12	被災者がツアー客を乗せて観光バスを運転し、高速道路を走行中、対向車線を走行中の大型トラックの左後輪の前部外側タイヤがホイールを固定するボルトが破断したためタイヤが外れ、中央分離帯を乗り越えてバスの運転席に激突した。	221	17	～	99
2009	4	4 ～ 5	被災者は、整備工場で自動車整備士として自動車及びバスの車両整備作業に従事していた。車検時に石綿含有のブレーキライニング等の摩耗粉の清掃をエアブローする作業を行っていた。某日息苦しくなり、翌日は通常通り出勤したが、苦しくなったため午前中に退社。11日後病院を受診し、そのまま入院し、後日死亡した。	514	12	～	99
2010	5	13 ～ 14	被災労働者は、貸切観光バスの運転手であるが、1泊2日の主催観光旅行のバス運転業務に従事し、1日目の宿泊場所のホテルに宿泊した。翌朝、出発時間になっても姿が見えなかったため、部屋を確認しに行ったところ、倒れているのを発見された。救急車を呼んだが既に死亡していた。	921	90	～	49
2011	8	0 ～ 1	観光バス運転手である被災者は、平成23年8月18日にくも膜下出血、左椎骨動脈動離により死亡した。死亡直前1か月間の時間外労働時間が100時間を超えていた。	921	90		
2011	9	17 ～ 18	駅前バス停から路線バスを運行中のバス運転手が、駅前バス停を通過直後、台風の影響により断線していた高圧電線が道路上に認められたため、バスを降りて当該電線を持ち、道路脇に向かって歩行中に、感電により倒れたもの。心肺停止状態で救急搬送されたが死亡した。	351	13	～	299
2012	8	22 ～ 23	観光バスのガイドである被災者は、業務終了後バスの車内清掃を行っていたところ、くも膜下出血を発症し、救急搬送先の病院で死亡した。	921	90	～	49
2012	6	10 ～ 11	生徒27名と引率教諭2名を乗せた大型バスが、高速道路を目的地に向かい走行中、中央分離帯に衝突し、バスの運転手が全身を強く打ち、搬送先の病院で死亡した。	231	17	1～	9

2013	7	1 ～ 2	乗客を乗せて高速道路をバスで走行中、走行中のキャリアカー（車6台を積載）に追突した。	231	17	～ 29	10
2013	9	9 ～ 10	道路の端において、軽トラックのキャビン上で、梯子を使ってバス運行に支障のある木の撤去作業を行っていたところ、約1.6m下のアスファルト道路上に墜落した。	221	1	～ 99	50
2014	11	13 ～ 14	バスの運転手である被災者が、車庫（約3度の下り斜面の回転場）にて、テールランプの交換を行っていた際、バスが動き出し、市道を下り始めたため、被災者が止めようとバスの前方へ回り込んだところ、引きずられ圧死した。尚、バスの前バンパーの乗降口の扉を開けるためのレバーのカバーは開いていた。	231	7	～ 299	100
2014	10	9 ～ 10	大型観光バスを運転し、国道を走行中、カーブで対向車線を走行していたトラックがバス側の車線にはみ出し、バスとトラックが正面衝突した。	221	17	1～ 9	
2014	10	16 ～ 17	被災者が、回送のバスを運転し、走行中、カーブにてスリップし、中央分離帯のガードレールに衝突し、死亡した。	231	17	～ 299	100
2014	8	4 ～ 5	被災者が運転するバスが走行中、前を走行していたトラックが第2車線へ車線を変更した際、トラックの前を走行していた大型トラックのスピードが遅かったため、車間距離が詰まり、前を走行する大型トラックに追突した。	231	17	～ 99	50
2014	3	5 ～ 6	長距離バスを運行中、高速自動車道のサービスエリア手前に差し掛かったところ、被災者が運転操作を誤り、サービスエリア手前のガードレールに4度接触し、その後、サービスエリア駐車場に駐車していた大型トラック後方に衝突。その衝撃で死亡した。	231	17	～ 99	50
		3	被災者は、路線バスの運行を終え、終点の回転場にて次の運行に備え停車していた。後続のバスが運行を終え、同じ回転場に到着したところ、被災				100

2014	2	～	者の車両がまだ回転場に停車していたため、後続車の運転手が車両を確認	921	90	～
	4		したところ被災者がハンドルにうつ伏せになっているのを発見し、救急搬送されたが死亡が確認された。			299
2014	1	19	当日の運行を終了して車庫に戻ってきたバスに、清掃作業員であった被災	231	6	10
		～	者が車庫敷地内で轢かれた。目撃者はおらず、またバス運転手は、当初、			～
		20	被災者の存在に気付かず、降車後に被災者を轢いたことに気付いたとい			29
			う。			
2015	7	0	高さ85センチメートルの脚立に登って、中型バスの後部窓を清掃してい	371	1	1～
		～	た被災者が、地面に倒れているのを代表取締役が発見した。災害発生後、			9
		1	被災者は病院に入院し治療を受けていたが、平成27年8月2日に死亡し			
			た。			
2015	3	16	観光バスを運転・運行していた被災者が片側1車線の高速道路を走行中、	221	17	10
		～	反対方面から対向してきたトラックが中央線をはみ出し、当該観光バスに			～
		17	衝突したもの。被災者以外に対向トラックの運転士1名、同乗者1名、観			29
			光バスの乗客19名負傷。			
2016	10	2	深夜高速バスのドライバー2名が運行中に車両故障が発生したため、幅3	221	17	50
		～	m程度の路側帯に大型バスを停車し、後方に三角板を置いて車外で故障箇			～
		3	所の確認を行っていたところ、後方からトラックに追突され、衝撃で動い			99
			たバスと道路側壁の間に挟まれて死亡した。			
2016	10	2	深夜高速バスのドライバー2名が運行中に車両故障が発生したため、幅3	221	17	50
		～	m程度の路側帯に大型バスを停車し、後方に三角板を置いて車外で故障箇			～
		3	所の確認を行っていたところ、後方からトラックに追突され、衝撃で動い			99
			たバスと道路側壁の間に挟まれて死亡した。			
2016	9	21	渡り橋の上でトラックの誘導を行っていた被災者が、高さ約4mの側溝に	416	1	30
		～	転落し死亡した。			～
		22				49
		2	午前2時ごろ、国道において、走行していた大型バスが走行中に道路右脇			100
			の崖下に転落し、車体が横倒しになった。当該バスには乗務員2名、乗客			

2016	1	～ 3	39名の計41名が乗車していたが、乗務員2名と乗客12名が死亡し、その他乗客27名が負傷した。	231	17	～ 299
2016	1	2 ～ 3	午前2時ごろ、国道において、走行していた大型バスが走行中に道路右脇の崖下に転落し、車体が横倒しになった。当該バスには乗務員2名、乗客39名の計41名が乗車していたが、乗務員2名と乗客12名が死亡し、その他乗客27名が負傷した。	231	17	～ 299
2017	12	8 ～ 9	被災者は朝、営業所に出勤し1階事務所に挨拶した後、2階にある乗務員控室に行くため、外階段を上っていたところ転落し、階段下に倒れているところを発見された。	413	1	～ 49
2017	12	12 ～ 13	被災者は正午頃に同社のバス運転手から車両の不具合について連絡を受け、午後1時頃から当該バスの整備を始めた。その後、整備は車両後方のみを油圧ジャッキにより持ち上げ、エンジン付近の不具合箇所をエンジンをかけたまま確認していたところ、不具合箇所付近で回転していたプロペラシャフトに巻き込まれ死亡した。	231	7	～ 49
2017	10	4 ～ 5	被災者は工場（顧客）とその最寄り駅間で顧客従業員向けの送迎バスを運転する業務に就いていた。被災当日は、営業所で点呼を受けた後、被災者の自家用車で、送迎バスを置いている車庫に移動中、側道から国道本線へ合流する際に、本線を走っていたバイクと接触。降車し被災者とバイク運転手が路上で話し合いをしていた際に、後ろから来た別の車に轢かれ、頭部を負傷。脳挫傷により死亡した。	231	17	～ 299
2017	3	4 ～ 5	被災者は、車庫に出勤し点呼確認後、当該車庫から中型バス2台（被災者が当日使用するバスと出庫に邪魔になるバス）を出庫させ、当該車庫付近の市道に停車させた。代表者も自身が使用するバスを出庫させ、一旦市道で停車させたところ、被災者が出庫に邪魔になったバスの処遇を確認するため、路上にて代表者と会話中、直進してきた軽乗用車にはねられた。	231	17	1～ 9
2017	2	20 ～	バス転回場に停車していたバスが逸走し、民家ブロック塀に激突した。その際、バス運転手がブロック塀とバスの間に挟まれた。	231	17	～ 50



		21				99
2018	4	8 ～ 9	会社の業務のため軽トラックにて国道を走行中、交差点右折のため右車線で一時停止していたところ、後方から大型貨物自動車に追突され、対向車線に押し出され、走行してきた中型貨物自動車と衝突し、助手席に乗っていた被災者は胸などを強く打ち死亡した。	231	17	1～ 9
2018	2	6 ～ 7	被災者は路線バスの運転手。路線バスの車体の下に巻き込まれた状態で発見されたもので、その後、死亡が確認された。事業場内は緩やかな勾配の坂となっており、同路線バスは坂の中腹の縁石付近にエンジンがかかったままの状態では停止していたもの。災害発生時、被災者は1人で作業していたもので、目撃者もおらず、詳細な発生状況は不明。	231	7	100 ～ 299
2019	12	22 ～ 24	高速道路のトンネル内をに高速路線バス運転走行中、他の車両火災により発生した煙により視界不良となり、前方の車に追突したものの。	231	17	100 ～ 299
2019	11	8 ～ 10	事業場の整備工場内で除雪に使用するトラクター・ショベルのバケット部分に雪を削るための部品を取り付けるため、被災者がアーク溶接作業をしていたところ、溶接の火花が着用していたツナギに飛び火して身体全体に火が回り、火傷（全身の30%がⅡ度、ほか全身の30%がⅢ度）を負ったもの。入院加療していたが、災害発生して13日後に被災者は容態が急変し死亡したものの。	332	11	10 ～ 29
2019	5	8 ～ 10	業務で運転中に交通事故の加害者となり、自宅待機中に自殺した。	921	90	100 ～ 299
2020	4	12 ～ 14	道路沿線の斜面で、被災者を含む2名の労働者が積雪による倒木や折木の処理を行っていたところ、チェーンソーで切断した立木が意図した方向に倒れず、予想外の方向に倒れ、被災者の頭部を直撃した。	712	6	10 ～ 29
2020	3	20 ～	傾斜のある道路上で、パーキングブレーキの故障により停車した低床式バスの修理のため、木製の台座にバスの後輪を寄せ、被災者がバスの車体の下に入り、パーキングブレーキのエアを抜いたところ、パーキングブ	231	7	100 ～

22 レーキが解除されたことによりバスが後方に動き、台座から後輪が外れ、  
バスの車体と道路に全身を挟まれたもの。

299

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.html)に戻る。